



仕掛けには大きな山太郎ガニの姿が。



「より多くの宿泊者に対応できるよう農家民宿の軒数を増やしたい。今後は修学旅行など子どもたちの農山漁村生活体験学習の受け入れにも取り組みたいです」と話す山下さん。

さつま町グリーン・ツーリズム研究会
事務局(さつま町役場農政課)
☎0996-53-1111

川辺で食べる新鮮な鮎の塩焼き、山太郎ガニ鍋は絶品。



Green
tourism
Kagoshima

【特集】

かごしまの グリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズムとは、都市部の住民が余暇を利用して農山漁村地域に滞在しながら自然、文化、人々との交流を楽しむ活動のこと。農業体験や農家民宿への宿泊、農産物直売所での地域農産物の購入などを通してその地域の豊かな自然や暮らしに触れることです。また、都市と農山漁村の住民の交流を通して、農産物や農産加工品の販路拡大、農家民宿などの経営による農家所得の向上など農山漁村の活性化につながる有力な手段として期待されています。県内のグリーン・ツーリズムの取り組みの一部を紹介します。

田舎の良さを 伝えたい

さつま町 グリーン・ツーリズム研究会

参加者が農作業などを体験して宿泊する「体験型民宿」を中心に活動しているさつま町グリーン・ツーリズム研究会。会員同士で活発に意見交換し、先進地への研修視察も行うなど、地域のグリーン・ツーリズムの推進に積極的に取り組んでいる。

「グリーン・ツーリズムの活動は楽しいですよ」と笑顔で話すのは会長の山下康博さん。「農林業体験イベントを通じて、もっと多くの方々にさつま町に来てもらいたい」と町の豊かな資源を生かし、田植え、椎茸のコマ打ち、やな漁、炭焼きなど、季節に応じたさまざまな体験ツアーを実施しており、ツアー参加者の多くがリピーターになるなど好評を得ている。

平成21年11月に川内川支流の久富木川で行われた「山太郎ガニ・おち鮎体験ツアー」。参加者は地元のおち鮎漁師の漁を見学したり、とれたての鮎を自分で塩焼きにしたり、手作りの釣り竿でハヤ釣りに挑戦したりと、ゆったりとした時間の中でのびのびと過ごしながら地元の方、または参加者同士の交流を深めていた。

「体験や農家民宿の受け入れには、素朴さを失わないよう、手を加えずきないことに気をつけています。体験ツアーなどを通して、日の出とともに起き、日が暮れたら仕事をやめて家に帰るといった自然と同じ時間で行動する田舎の良さを伝えたいですね」と山下さん。

大人から子どもまで、参加者だけでなく受け入れ側も一緒になって、体験ツアーを楽しんでいる様子が印象的だった。



自分で育てた無農薬の野菜を県外に住む子どもに食べさせたいと農作業を楽しむ利用者も多いとのこと。

川辺ふれあい農園

開園時間:午前8時~午後7時
問い合わせ先:南九州市川辺支所農林水産課 ☎0993-56-1111



店内の加工施設で製造されるヨーグルトもお薦めです。

道の駅 川辺やすらぎの郷
南九州市川辺町清水6910
☎0993-58-3131
アクセス:
鹿児島市から国道225号を南西方角に車で約50分
営業時間:
○物産館
午前8時~午後7時(4月~11月)
午前9時~午後6時(12月~3月)
○レストラン
午前10時30分~午後7時(4月~11月)
午前11時~午後6時(12月~3月)



「そのときにある旬のものを食べていただきたい。料理には自家製の新鮮な無農薬野菜を使っています」とトミ枝さん。

陽なたぼっこのよしおちゃん家
南九州市知覧町永里12364-1
☎0993-84-2336
アクセス:
県道23号を南下、知覧ICから車で15分。
料金:1泊2食
大人 6000円
子ども 5000円
体験メニュー:
農作業体験、郷土料理作り、木工細工、草木染など

家族限定。これまでに日本全国から宿泊客を受け入れており、遠くはアメリカやドイツからの旅行者を受け入れたことも。「たくさんの出会いがあり、いろんな話を聞くことができます。民宿を始めて、自分たちが教わることの方が多いんですよ」と笑うトミ枝さん。

「はぐくむ・食べる・創る」という人が生きる上で大切なことを一緒に体験していきたいです」。

義雄さん、トミ枝さんの人柄と、心のこもったおもてなしに感動し、何度も訪れる宿泊客も多い。夕食後のだんらんの時間は毎晩遅くまで話が盛り上がる。

ゆつくりくつろいでほしい

農家民宿

陽なたぼっこのよしおちゃん家

農家のライフスタイルそのものを体験できる農家民宿。

南九州市知覧町の「陽なたぼっこのよしおちゃん家」は田舎の文化や風習、料理など、これまで自分たちが教わってきたことを伝えていきたいとの思いで、木工職人の宮崎義雄さん、トミ枝さん夫婦が営んでいる。

農産物直売所・市民農園

お客さまと生産者、売り場との交流を大事にしたい

道の駅 川辺やすらぎの郷

南九州市で生産された新鮮な農産物、農産加工品の直売を行っている「道の駅 川辺やすらぎの郷」。来場者は年間約60万人、6割は鹿児島市から訪れる。定期的開催する季節に応じたイベントでは、陶芸、乳牛の乳搾り、木工教室などさまざまな体験を楽しめる。また、生産者が直接店頭で販売する青空野菜市は人気イベントの一つであり、都市住民と農村の交流の場としても活用されている。

物産館の一番の売りである新鮮な野菜は、南九州市内の登録農家273人が生産し、年間の売り上げは一億円以上のぼる。「毎朝採れたての野菜を農家さんが持つてきて店頭で並べます。ほとんどが高齢者ですが、皆さん元気ですよ。自分の作った野菜の売れ具合が直接分かるので、売れる喜びが健康につながっているようです」と農産物販売課長の西迫峰洋さん。また、地場産大豆100%の「寄せ豆腐」は店内の加工施設で製造され、できたてが並ぶ人気商品。毎日ほぼ完売状態とのこと。

田舎のじいちゃん、ばあちゃん家に来たつもりでくつろいで



「自然がいっぱいの屋久島の空気のおいしさを感じてほしい」と絹代さん。

山ノ瀬果樹園で栽培される立派なボンカン、タンカンが農協へ出荷されるほか、宿泊客も購入できる。



農家民宿 山ノ瀬
屋久島町小島17-31
☎0997-47-2862
アクセス:
小島集落東側入口に看板あり
料金:1泊2食
大人 6500円
子ども 4000円
体験メニュー:
ボンカン・タンカン収穫体験、縄文杉日帰りツアー、シュノーケリング、磯釣りなど
ホームページ:
<http://www6.ocn.ne.jp/~yamanose/>

「お客さんというより家族みたいな感覚です」と優しい笑顔の絹代さん。「とれたてのおいしさを味わってほしい」と自家製の野菜と近くで採れる新鮮な魚貝類を使った家庭料理は大好評で、かごしま地産地消推進店にも登録されている。

「お客さんが何度も来てくれることが嬉しい」と政廣さん。今後は農業体験に力を入れたいと生き生きと語ってくれた。

屋久島で生まれ育った岩川政廣さん、絹代さん夫婦が屋久島町小島で経営する「農家民宿山ノ瀬」。

関東・関西をはじめ県内外や海外から年間600~700人が宿泊に訪れ、約6割はリピーター。お客さんから、「くまさん、絹さん」と呼ばれるお二人の温かい人柄と屋久島の旬の食材を使った手料理に魅せられ、中には一年に何度も訪れる方も。

農家民宿 山ノ瀬

市民農園「川辺ふれあい農園」

川辺やすらぎの郷に隣接する高台には市民農園「川辺ふれあい農園」がある。旧川辺町が遊休農地を利用して開設、都市住民の農業に対する理解促進を図っている。

利用者は鹿児島市内から訪れる方がほとんどで、全104区画の畑の9割以上が利用されている。肥料や種苗を自分で準備すれば、農機具は貸し出される。休憩施設や駐車場も整備されており、休日は家族や友人連れでにぎわうとのこと。

農業の経験のない利用者には、営農指導員が丁寧に指導を行っており、農園内はきれいに手入れされた野菜や花でいっぱい。野菜作りだけでなく、利用者同士の情報交換など農園での人との交流、ふれあいも魅力の一つになっている。



「ここは笑顔が絶えない、農家の憩いの場。お客さまとの交流も大切にしたい」と西迫さん。

かごしまのグリーン・ツーリズムネットワーク組織の設立へ

県ではグリーン・ツーリズムの取り組みの更なる活性化に向け、県内各地のグリーン・ツーリズムにかかわる方々を結ぶネットワーク組織の設立に取り組んでいます。県内の農林漁業体験民宿や農産物直売所、市民農園、農家レストランなどについては、県ホームページをご覧ください。(県ホームページ→産業・労働→食・農業→農村振興→「むらづくり」,「グリーン・ツーリズム」データベース)